



## これから私たちが 取り組むこと

西宮市では震災の経験も経て、市民と手を携えながら災害に強いまちづくりを進めてきました。

しかし、震災から20年がたち、震災を経験していない市民が増えるとともに、被災経験を持つ人の中でも月日が経つ中で、災害に対する備えについて心の油断が生じてきているのではないのでしょうか。

あの震災から20年という節目において、今後の防災・減災の取組みを考えたいと思います。

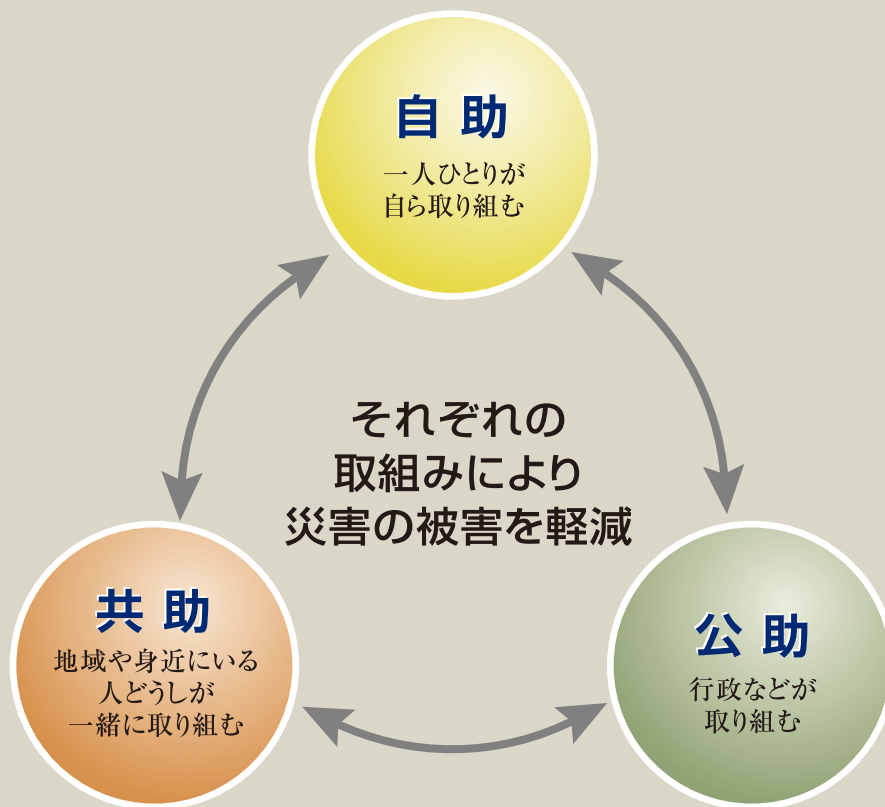


# 「減災」の取組み

－みんなの力で被害を減らす－

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、多くの人が想像もしていなかった大地震でした。災害はいつどこからやってくるか分からず、私たちはその自然の驚異から逃れることはできません。

しかし、災害による被害は、わたしたちの日ごろの努力によって減らすことが可能です。被害を完全に防ぐことはできませんが、ハード・ソフトの様々な取組みを合わせて、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方が、阪神・淡路大震災以降、重視されるようになりました。



## 【一人ひとり、そして地域で、自らの命を守るために】

災害による被害を少なくするためには、自分の身は自分で守る「自助」、地域住民による「共助」、行政による「公助」、それぞれの取組みが大きな力となります。

これらは、災害が起きてから始めたのでは間に合いません。一人ひとりができること、家族や地域でできることなどについて普段から考え、いざというときの備えをしておくことが大切です。

## 減災の取り組み 事例

# にしのみや津波ひなん訓練

平成25年1月に南海トラフ巨大地震の特性を踏まえた「強い地震の発生から津波が来るまで」を一連の流れで体験できるよう、住民避難行動を中心とした実践的な訓練を実施しました。

障害者の団体や商業施設等の自主的な参加なども含め、延べ4万6,300人を超える方が参加しました。



□ 地震の揺れから身を守る訓練(=シェイクアウト訓練)  
「姿勢を低く!」、「体・頭を守って!」、「揺れが収まるまで待つ!」



□ 津波が来る前に津波避難ビルやJR神戸線以北に避難する訓練



□ 福祉施設・病院における避難者受入れ訓練  
避難者と連携した利用者搬送が行われました

## 【 命を守るために迅速な行動を 】

～ 一人ひとりの行動で、南海トラフ巨大地震の被害も激減します ～

防災が被害を出さないことを目指す総合的な取り組みであるのに対して、減災とはあらかじめ被害の発生を想定した上で、その被害を最小化させようとするものです。

平成26年6月に兵庫県が南海トラフ巨大地震における被害想定を発表しました。その想定結果では、西宮市で最大7,664人の死者が発生すると発表されましたが、市民の皆さんが迅速な避難を

するだけで、死者数を47人と劇的に減らすことができるかとされています。

また、地震からの備えとして、家屋の耐震化も有効な手段です。このように「避難の大切さを知ること」とともに「日頃からの備えを怠らずに、災害時には全ての市民が率先して迅速に命を守る行動をとること」が減災にとって最も重要です。

# 震災の教訓から見えてくるもの

阪神・淡路大震災は、それまでの災害対策について大きな転換点となりました。

震災により私たちは多くの教訓を得ましたが、ここでは震災の状況なども踏まえながら、以下の5つの点について対策の必要性や取組みの紹介をします。



## 1 命を守る耐震化・・・ p23



## 2 災害時に備えた備蓄・・・ p25



## 3 災害時の情報収集・伝達・・・ p27



## 4 地域の取組みがまちを救う・・・ p30



## 5 学校での学び・・・ p36